



# 試行の中原区区民会議報告

---

地域社会の抱える課題の解決に向けて

平成18年3月  
中原区役所

## 目 次

### 1 試行の区民会議のまとめ

地域社会の抱える課題の解決に向けて～審議結果とその後の取組み～

( 1 ) 自転車と共生するまちづくりの推進 .....	1
( 2 ) 地域における子育て支援についての取組み .....	3
( 3 ) 学校と地域社会の在り方 .....	5
( 4 ) 地域で取り組む安心・安全なまちづくり .....	7
( 5 ) 区民会議の制度について .....	9
( 6 ) 試行の区民会議のまとめ .....	9

### 2 試行の中原区区民会議の開催概要

( 1 ) 第 1 回開催概要 .....	1 1
( 2 ) 第 2 回開催概要 .....	1 1
( 3 ) 第 3 回開催概要 .....	1 1

### 参考資料

委員及び参与名簿

## 1 試行の区民会議のまとめ

### 地域社会の抱える課題の解決に向けて～審議結果とその後の取り組み～

試行の中原区区民会議では、本実施に向けた区民会議制度に関する議題に加え、地域社会が抱える課題に取り組む区民から活動状況の報告を受け、抱える課題の解決策について検討した。

会議では、委員から課題の解決に向けた意見・提案と参与からの助言もあり、その一部については、区と地域の方々が協議し活動に取り入れることで、一定の成果を挙げることができた。

以下に、会議で検討した課題別に「報告」、「意見及び提案」、「会議後の対応」として示す。

なお、いずれの課題も引き続き解決に向けた取り組みを行いながら、適宜会議に報告し必要な検討と対応を行う。

#### (1) 自転車と共生するまちづくりの推進について

報告（報告者：自転車と共生するまちづくり委員会、委員長 芳賀誠氏）

- ・バリアフリーまちづくり推進委員会の検討の中で、武蔵小杉駅周辺の放置自転車問題への対応が提案され、平成13年2月に自転車と共生するまちづくり委員会が発足した。
- ・委員会の活動理念は、自転車の利用を排除するものではなく、歩行者と自転車が共生するものとした。
- ・活動の初期は武蔵小杉駅周辺の自転車放置の状況を調査した。
- ・委員会のメンバーは、のぼり旗を掲げ、ベストを着用し、作成した駐輪場マップを配布し、正しい自転車の止め方(自転車利用のマナー)について呼びかけると共に、放置自転車の整理・誘導活動を行った。
- ・駅から距離があることで利用率の低い駐輪場について、建設局自転車対策室と協議し、実験的に約1年間無料で開放した。
- ・東急東横線改札直近の新丸子東第1公園の一部を借用し、実験的に日中の一時利用(無料)駐輪場を開設した。
- ・実験の結果を踏まえて、駅からの距離により駐輪場の利用料金に格差を設け、駐輪場利用率の向上を図った。
- ・それぞれの活動の段階で委員会のメンバーだけでなく、地元商店街、町内会、企業、



第1回試行の中原区区民会議  
(平成17年7月19日開催)

警察署、区役所、関係機関が連携、協力することで、継続した取り組みが行え、成果をあげることができた。

- ・自転車と共生するまちづくり委員会からの上記の報告に加え、中原区役所地域振興課から区内各駅における委託による自転車整理と誘導を中心に区及び市の取り組み状況について説明を行った。

#### 主な意見及び提案

- ・武蔵小杉駅周辺の活動を他の鉄道駅や商店街アーケードも対象に商店街や町内会などとも協力しながら進めてはどうか。
- ・武蔵中原駅では撤去、誘導活動の行われていない土曜と日曜に放置自転車が多いので、活動時間の拡大を図ってはどうか。
- ・放置自転車問題の解決には利用者のモラル向上が大切。自転車利用者を対象にモラルやマナー講習会を開催し、修了者には「私はモラルを守ります」と書いたシールを配布し、みんながモラルを守る雰囲気づくりを進めてはどうか。

#### 会議後の対応

##### 「武蔵中原駅周辺での対応」

- ・武蔵中原駅周辺では、新たな放置自転車問題への対応組織として放置自転車対策連絡会<sup>1</sup>を設立し、放置自転車問題の解決に向けた対策に取り組んだ。
- ・交通安全運動と合同のキャンペーンを駅前で実施し、「私はルールを守ります」とプリントした自転車の前かごカバーと駐輪場マップを配布し、駐輪場の利用を呼びかけた。
- ・(株)日本信号機材のご厚意により、駅通路（改札外）の路面に放置禁止サインを施工していただいた。
- ・アルカード武蔵中原店では、店舗の出入口等に駐輪場案内表示を設置した。
- ・中原区役所で駅通路に放置自転車を防止するためのカラーコーン類を設置した。
- ・以上の対策の相乗効果によって、放置自転車の大幅な減少が図られた。



対策前の武蔵中原駅通路



対策後の武蔵中原駅通路

### 「武蔵新城駅周辺及び武蔵小杉駅周辺での対応」

- ・武蔵新城駅及び武蔵小杉駅周辺でも武蔵中原駅と同様のキャンペーンを行い、前かごカバーと駐輪場マップを配布し、駐輪場利用の促進と放置禁止の呼びかけ活動を行った。



武蔵新城駅周辺でのキャンペーン活動



「私はマナーを守ります」前かごカバー

- ・今後は武蔵中原駅前広場公園の放置改善に向けた取り組み、整理誘導員の適切な配置、駐輪場利用率の向上など総合的な対策を継続的に行う必要があると連絡会においても確認された。

#### 1) 武蔵中原駅・武蔵新城駅周辺放置自転車対策連絡会

JR 武蔵中原駅・武蔵新城駅、アルカード武蔵中原・武蔵新城、富士通(株)川崎工場総務部、西友武蔵新城店、マルエツ新城店、川崎信用金庫武蔵中原支店、セレサ川崎農業協同組合中原支店、三菱東京 UFJ 銀行武蔵新城駅前支店、横浜銀行新城支店、大戸地区町内会自治会等連絡協議会、中原区商店街連合会、自転車と共生するまちづくり委員会、中原警察署交通課・地域課、建設局自転車対策室、中原区役所建設センター・地域振興課

#### (2) 地域における子育て支援の取り組み

報告（報告者：中原区子育て支援推進委員会、副委員長 杉野茂彦氏）

- ・子育てサロンの目的は、核家族化の進行に伴う、子育て世代の孤立化や育児不安の解消を図るため、地域の中で安心して育児ができる環境づくりを地域全体でサポートすることにある。
- ・平成15年度に区からの委託により、社会福祉協議会、民生委員、児童委員により協議会を設立し、地域のボランティアの参加を得て、区と協働で事業を進めてきた。
- ・子育てサロンは区内を7地区に分け、14カ所の会場で実施しており、平成16年度は延べ160回を開催し、参加者は8,548名、またこれを支えたスタッフが1,901名となった。
- ・平成16年度は西中原中学校から中学生をボランティアとして迎え、地域の世代間



交流を進める取り組みを行った。参加した中学生からは「赤ちゃんは非常にデリケートだった」、「親の大変さがよくわかった」との感想が寄せられ、また、運営しているスタッフからは互いに挨拶がきちんとできたり、意思の疎通がうまくできたりしたことなどから「中学生を見直した」と評価の声を聞いた。

- ・スタッフも活動を通して「世代間のつながりが大切であることを痛感した」、「子育ては地域みんなの課題だと実感した」などの意見が寄せられるようになった。
- ・見守りネットワークの活動についても子どもの虐待防止を狙いに始めた活動であったが、親子だけでなく、高齢者や障害児の見守り活動にも応用できると考えている。
- ・今後の課題は、1)安全で使用料の安価な会場の確保(事業の拡大)、2)予算確保の多様化(団体からの寄付及び援助等)、3)人材育成(地域が育てる人材)、4)関係団体とのネットワークの構築、5)地域の見守りネットワークの充実(子育て、高齢者、障害者、防災、防犯など地域の方々のハートで結ばれたネットワーク)などたくさんあるが、できることから着実に取り組んでいきたい。
- ・中原区子育て支援推進委員会からの以上の報告に加え、中原区役所地域保健福祉課から区内の子育て関連施策と区及び市の取り組み状況について説明を行った。

#### 主な意見及び提案

- ・子育てサロンの開催日を週末に設定するなど、父親の参加ができるような工夫も必要だと思う。
- ・産みやすく育てやすい環境づくりのために、子育てサロンの活動を継続してほしい。
- ・現在、中学校の空き教室を借りた子育てサロンの運営に参加しているが、わくわくプラザの午前中の利用や老人いこいの家の利用も考えてはどうか。
- ・運営する人材の養成や確保も大切であり、また、社会福祉協議会と町会の地元組織が協力して進めることが肝要だと思う。
- ・現在は無料の子育てサロンへの参加者から、一定程度の負担を検討してはどうか。

#### 会議後の対応

- ・小杉地区社会福祉協議会の努力によって、老人いこいの家としては第1号の利用が可能になり、7月から等々力老人いこいの家で子育てサロンを開始することができた。
- ・丸子地区でも老人いこいの家の利用に向けた取り組みに着手した。
- ・父親の参加に配慮した取組みとして、休日に実施する健康まつりや福祉まつりなどの場を活用して子育てサロンの活動を紹介するなど、子育て支援の取り組みのPRを行った。
- ・子育てボランティア養成講座や子育てサロン運営に関する相談や学習会へ区から講師派遣を行い人材養成支援の充実を図った。

- ・子育てサロンを卒業する親を支援し、自主グループの活動が広がった。
- ・子育てサロンに馴染みにくい親を集めたグループの活動が自主的に始まった。
- ・障害児をもつ方への支援の活動も始まり、子育てサロンをきっかけに、多くの人材と活動が生まれた。



井田地区子育てサロン



子育てサロンのボランティアのみなさん

### ( 3 ) 学校と地域社会の在り方

報告（報告者：川崎市立井田小学校、校長 新村富喜子氏）

- ・井田小学校では「元気がいっぱい」、「学びがいっぱい」、「優しさいっぱい」の三つを学校目標として教育活動を進めている。
- ・学校誕生の頃は生徒を地域の多くの人知っていた。それは、地域のコミュニティーができていたところに学校ができたから



第2回試行の中原区区民会議

- である。
- ・経済の発展と都市化の波によって、（平成17年11月25日井田小学校体育館にて開催）隣人の見えない時代が到来し、学歴重視の社会が形成されてきた。
  - ・学習指導要領は「知識偏重」から「人間性の豊かさ」、「ゆとり」へと変遷を遂げた。
  - ・地域の特色を生かし、自ら学び、自ら考える体験的な活動の充実、さらに問題解決的な活動の充実が叫ばれ「総合的な学習の時間」が創設された。
  - ・「総合的な学習の時間」に併せ、一人一人の子どもが主人公、学校に自由と自治を、保護者や住民と共にある学校、地域の教育ネットワーク、教育の市民参加などが提言された。
  - ・地域に開かれた学校をめざして、体育館や校庭の開放が進み、昨年度からは図書館も開放されるようになった。また、秋には三日間のオープンスクールを実施している。
  - ・子育てを学校だけでなく、地域と保護者と学校が連携して、ネットワークをつくり、中学校区で子育てをみんなで考え、大人も学んで、地域で子育てを考えていくとい



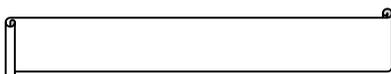
- う趣旨で「中学校区地域教育会議」が始まった。
- ・子どもの権利条例の施行を背景に、大人だけではなく、子どもも交えて学校教育推進会議が各校に設置された。
  - ・保護者や地域の方々がボランティア登録をしており、井田小学校でも100名を超える方が本の読み聞かせ、ガーデニング、校外授業の引率、プール監視、英語、昔遊びなど様々な活動を支援している。
  - ・地域の方から、学校は地域の宝、地域に子どもたちの元気な声が響き渡ることが嬉しいとの声が寄せられるようになった。
  - ・一度は閉ざされた学校が、地域に開く、保護者に開くという取り組みを通して、地域の中で輝く学校でありたいと考えている。
  - ・開かれた学校をめざしているが、子どもを不審者から守るというセキュリティも求められており、現在、一週間に三回程度、保護者が学校周辺のパトロールを実施している。今後も地域と保護者の協力を得て取り組みを進めたい。

#### 主な意見及び提案

- ・学校開放について、井田小学校は開放的で地域と密着した活動をしていると強く感じた。
- ・川崎の子どもたちや学校の状況を多くの市民が共通の認識を持って、今後のあり方について議論したい。
- ・地域の人々が学校に参加できる仕組みが大切であり、井田小学校の活動はこれに則していると感じた。

#### 会議後の対応

- ・井田小学校では保護者の協力を得て校内LANの敷設工事を行った。
- ・「宮内・中原安全パトロール隊」が平成18年1月中原小学校で発足式を行い、防犯ベストを着用し、児童や生徒の登下校時にパトロールを行っている。
- ・市政だよりの区版紙面の拡充に合わせて、区内の小中学校を紹介するコーナーを設け、平成18年6月号から毎月1校ずつ、各校の特色ある取り組みを掲載し、地域と学校の連携が深まるよう取り組む。
- ・総合的な学習の時間に「区行政（区役所の仕事、地域ボランティアの紹介等）」をテーマにした授業を行い、区と学校の連携を推進する取り組みを行った。
- ・中学校からの依頼により職場体験学習に応じ、生徒を区役所が受け入れる試みを行った。





5年生による井田米プロジェクト



井田共和会連合町会体育祭

#### (4) 地域で取り組む安心・安全なまちづくり

報告（報告者：木月一丁目町会、会長 徳上昇氏）

- ・町内でひったくりや空き巣が多発したことを受けて、昨年（平成16年）夏に中原警察署からの誘いもあり防犯パトロールを始めた。
- ・当初は防犯部を中心に活動を行ったが、その後、役員50人全員で取り組むようになった。
- ・現在の防犯パトロールは月2～6回、活動をアピールすることで犯罪の抑止力を発揮させるために専用のベストを着用し、のぼり旗を掲げ、元住吉駅改札付近に立って乗降客への牽制を手始めに、住宅地へ進む。いずれも声を掛けるなどはせず、無言でのパトロール活動を行っている。
- ・住宅街のパトロールでは、たえずコースを変更している。
- ・町会が管理する防犯灯が区域内に200灯以上あり、防犯灯管理マップを作成し、町会内を16地区に分け、そこにいる200人以上の組長の方々にお願いし、夜間における点灯状況の確認を常時行っている。点灯不良の際には防犯部へ連絡があり、速やかに電器業者へ修理依頼して不点灯などがないよう努めている。
- ・パトロールはあまりハードスケジュールであったりすると、毎回同じ内容では参加者も飽きてしまい長続きしないので、1回あたり1時間程度にして、また、内容にも変化を持たせて継続できる工夫をしている。
- ・今後も引き続き町会全員の防犯意識を高め、近隣町会とも連携しながら犯罪ゼロをめざして活動を行う。

#### 主な意見及び提案

- ・地域の活動として効果的な活動だと感じた。
- ・町会への未加入世帯が増えているが、地域コミュニティを築くためにも、この活動を広げてはどうか。
- ・商店街は閉店後にアーケードの電灯を消している。暗い道は不安が多い。経費の問題もあると思うが、点灯時間の延長が行えるような検討が必要だと思う。



## 会議後の対応

### 「中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会での対応」

- ・「中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会」を平成17年11月設立し、事業計画等について協議した。
- ・協議会設立と同日、武蔵小杉駅前で啓発活動を行った。
- ・同協議会の研修会を今月（平成18年3月）区内全町会自治会（77団体）の防犯部長を対象に、神奈川県くらし安全指導員及び中原警察署生活安全課から講師を招いて開催した。
- ・また、上記研修会に合わせて、防犯活動用ベスト5着、腕章5本、拍子木1本を各町会に配布<sup>2</sup>した。
- ・さらに、同協議会では区内全町会自治会を対象にパトロールの実施状況などを把握するために調査表を配布しパトロール実態調査を行った。

2) 配布した防犯活動物品のうち、防犯活動用ベストは(財)八紘育英会から寄付を受け購入。

### 「その他地域での自主的な取り組みなど」

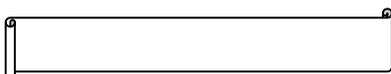
- ・「宮内・中原安全パトロール隊」が平成18年1月中原小学校で発足式を行い、防犯ベストを着用し、児童や生徒の登下校時にパトロールを行っている。(再掲)
- ・「青少年指導委員会のパトロール委員会」では青少年の健全育成を推進すると共に子どもが犯罪に巻き込まれないように、夜間巡回活動を行っている。
- ・区役所公用車に青色回転灯装備の許可（平成17年11月）を受け、各種キャンペーンに合わせて防犯パトロールを行っている。



安全・安心まちづくり地域推進協議会



住宅街のパトロール



## (5) 区民会議の制度について

報告（報告者：川崎市総合企画局政策部 阿部主査、中原区役所 木場田区長）

- ・ 区民会議の設置に向けた諸規定の整備について
- ・ 区民会議の組織及び運営に関する諸規定のイメージ
- ・ 区民会議の組織及び運営に関して定める事項について、中原区における考え方ほか



第3回試行の中原区区民会議

（平成18年3月24日開催）

### 主な意見及び提案

- ・ 様々な団体の参加により幅広い議論が必要。  
若い人にも参加してもらい意見を交換したい。
- ・ 区民会議が区民の間に浸透していない。年1回講演会やシンポジウムなど、人が集まるような催しと意見交換の場を設けてはどうか。

## (6) 試行の区民会議のまとめ

報告（報告者：中原区役所総務企画課企画調整担当主幹 鈴木賢二）

- ・ 報告書案により、第1回及び2回の会議概要の報告

### 主な意見及び提案

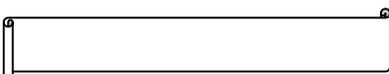
- ・ 本実施のためにも、審議の結果や意見がどのように区の中で課題の解決に反映されたか明確にすることが大切。
- ・ 駅前放置自転車について、新城の自転車協議会は大戸町連と話し合い、協力して改善していくことになった。
- ・ 新城商店街のアーケード街灯の点灯時間延長について、安全なまちづくりに対する期待に沿えるよう取り組んでいきたい。
- ・ 区民会議で審議しなくてはいけないことはたくさんあるが、重点課題を決めて「中原区はこれに対して手厚い」という方向性を示すことで、わかりやすく、参加しやすくなるのではないかと。中原としてのイメージづくりをすることも大切。  
例えば、「声かけのある区」、「小杉再開発に伴い新しく住民になる1万5千人に対して、『子育てに優しい区』」など。



- ・違法駐車のことや中原警察をオブザーバーとして呼ぶなど、県の行政に関わることも区民会議で議論することは可能か。
- ・委員は、区民会議で出された意見や提案を町会などの各団体に持ち帰って話し合っているのか。その点が重要だと思う。



第1回試行の中原区区民会議委員のみなさん





## 2 試行の中原区区民会議の開催概要

### (1) 第1回開催概要

日 時	平成17年7月19日(火)14時~17時15分
場 所	中原区役所5階502会議室
傍 聴 者	9名
特記事項	なし
議 題	(1) 自転車と共生するまちづくりの推進と課題について (2) 地域における子育て支援についての取り組みと課題について (3) 小杉駅周辺のまちづくりについて (4) 区民会議の試行にあたって、その位置付けと制度について

### (2) 第2回開催概要

日 時	平成17年11月25日(金)13時~16時
場 所	川崎市立井田小学校
傍 聴 者	35名
特記事項	会議に先立ち、午前中は学校内を見学し、給食の試食会を開催した。
議 題	(1) 学校と地域社会の在り方について (2) 地域で取り組む安心・安全なまちづくりについて (3) 区民会議の制度設計について (4) 第1回試行の区民会議における提案事項への取り組み報告

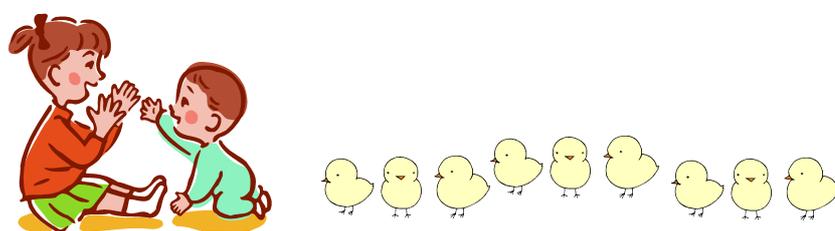
### (3) 第3回開催概要

日 時	平成18年3月24日(金)18時~20時
場 所	中原区役所5階502会議室
傍 聴 者	6名
特記事項	なし
議 題	(1) 区民会議の制度について (2) 試行の区民会議のまとめ ~ 審議結果とその後の取り組み ~ (3) 平成18年度協働推進事業費について



## 参考資料

- ・ 試行の中原区区民会議委員・参与名簿



川崎市中原区役所  
総務企画課企画調整担当

平成18年3月  
電話044-744-3151  
FAX044-744-3340  
65soumu@city.kawasaki.jp  
www.city.kawasaki.jp